

33102 食環境の整備 (健康食育推進事業)

(主担当:保健衛生室 健康増進課)

取組内容

1. 県民一人ひとりの健康的な食生活習慣の形成をはかるため、関係者が協働して、若年期からの食育の推進及び「みえの食生活指針」の普及啓発を行います。
2. 健康的な食の選択を可能にするため、特定給食施設等に対する指導の充実を図るとともに、関係団体等と協働して健康に配慮した食の提供など、食環境の整備を進めます。
3. 市町栄養士の支援、食に関するボランティア団体等とのネットワークづくりを行い、地域に根差した栄養改善活動を進めます。

1 朝食欠食幼児ゼロ推進事業

(1) 食育フォーラム・食育推進研修会の開催

地域で食育を実践・支援している団体・関係機関等が、相互の活動を知り、食育についての共通認識を持つことにより、食育実践の場において効果的な取り組みが継続的に行われていくことを目指して、教室やフォーラムを開催しました。

また、幼児期から学童期の食育を進めるうえで大きな影響を与える保護者や保育・教育関係者を対象に食育に対する知識を深め、今後の取り組みの充実を図ることを目的に食育講演会を開催しました。

①食育たいけん教室第3弾にの巻

実施年月日	実施場所	参加者
平成 19 年 11 月 10 日(日)	熊野保健福祉事務所	地域の幼児・小学生及びその保護者 7組18人
<p><概要></p> <p>紀南地域では、以前から継続して保健所・市町・NPO団体等が協働で食育活動を推進しています。また、食育の取り組みは2年前のアンケート調査からも様々な主体により進められていることがわかりました。</p> <p>しかし、食育のテーマのほとんどが、「食べ物の育ちを感じる」栽培活動や「料理ができる」クッキング体験といったものであり、三重県が推進している食育のテーマの一つでもある「食べ物の味がわかる」については、ほとんどありませんでした。</p> <p>その理由には、「目に見えるものではない」こと、指導支援する人材が少ない(保育所等に栄養士が配置されていない)ということがあげられるのではないかと思います。</p> <p>そこで、以前から当地域で率先して「五感を使った食育」をテーマに活動している食育ネットワークの実績とノウハウ生かした啓発をモデル的に開催し、今後地域へ波及することも念頭に教室を実施しました。今回は第3弾「におい」と「親子のコミュニケーション」をテーマに取り上げました。</p> <p><具体的な内容></p> <p>◇においをかいでみよう！おいしいスイッチはどこで入る？</p> <p>(1) 食材そのまんまで ↓ ↓ ↓ (2) お鍋で炊飯の時 野菜を茹でている時 魚を焼いている時 ↓ ↓ ↓ (3) 調味してできあがりの時</p>		

②食育フォーラム

実施年月日	実施場所	参加者
平成 20 年 1 月 20 日 (日)	熊野市保健福祉 センター	地域の親子及び PTA 会員、食育推進関係者等 午前(イベント)100 人 午後(講演会) 150 人

<概要>

当地域での第 6 回目となる食育フォーラムを開催しました。今年は、とくに紀南 P T A 連合会との初めての協働事業となり、子育て世代の男性や教育関係者への啓発ができました。

また、各団体がノウハウを持ち寄り、新しい食育ツール(買い物ゲーム等)の創作などの成果もありました。

<具体的な内容>

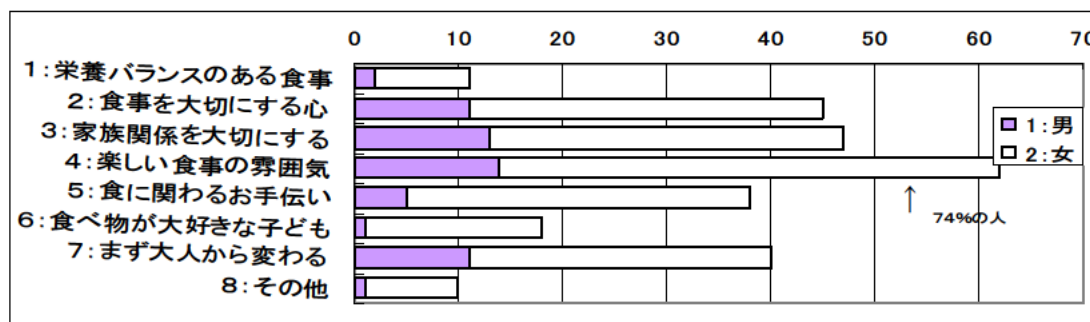
◇ 午前の部

- においの探検隊キャラクター「くんちゃん」のスタンプラリー
- 「くんちゃん商店街」で親子でお買い物ゲーム バランスよくお買い物
- 体験! にぎにぎおにぎり、郷土の料理 めはりずし、石臼コロコロきなこ体験
- においで目覚める朝ご飯 など

◇ 午後の部

- 食育講演会「からだ・心をそだてる食育」
- 講師 名古屋短期大学教授 小川雄二 先生

参加者が講演を聞いて、今まで以上に子どもに関わっていきたいと感じたことは「食卓の楽しい雰囲気を作っていきたい」が一番多かった(アンケート回答者 84 人中 74%)



(第3種郵便物認可)

栄養バランス点検

熊野で「食育フォーラム」

子どもや保護者に食育を求めた。その後、栄養への理解を深めてもらうために、熊野市保健福祉センターで「食育フォーラム」が二日連続で開催された。親子連れを約二千人が訪れ、食べ物などについて学んだ。

NPO法人「子どもステーション」の自給自足野菜などをつくる紀南地域食育推進連絡協議会が主催して今年で六回目。今回は、体験イベントと講演会があった。

イベントでは、子どもたちが食卓の献立を考え、食材の買い物体験をするコーナーがあった。子どもたちはカレーライスなど自分たちが決めた献立に必要な肉や野菜などの材料を、食肉や八百屋に見立てた場所で買

のだけを買って帰るけど、今日はメニューも考えて楽しかったと話していた。

このほか、おにぎりを握る体験や大豆から、ひき臼できな粉を作る体験コーナーなどもあり、来場者は楽しんでいた。講演会では、名古屋大の小川雄二教授が「からだ・心をそだてる食育」と題して話した。

(桜井 祐)

中日新聞
H20.1.22
朝刊記事

食材を選ぶ子どもら＝熊野市の市保健福祉センターで

↑きなん地方計画では、食育の目標に「食事が楽しいと感じている子どもを増やす」があります。

においの探検隊キャラクター
「くんちゃん」



③食育推進者への支援等

地域で食育を推進する関係団体の一つである熊野食生活改善推進協議会が、中学生を対象に食育講座を開催するにあたり、献立づくりや実施にあたっての留意点、手順等について相談・アドバイスを行いました。

また、必要に応じて様々な主体で行われる食育推進に各種啓発物を提供しました。

(2) 紀南地域食育関係者連絡会議の開催

平成19年に策定された三重県食育指針計画による三重県の目指す食育の基本方針等に関係者で共有すること、また昨年度まで設置していた「きなん食育推進ネットワークプロジェクト会議」で作成した食育のツール等の活用を検討すること、きなん地方計画(HPみえ・21の保健所版)の基本目標でもある食育推進の協働の場づくりとなることを目的に会議を開催しました。

実施期間・回数	実施場所	メンバー構成
平成19年8月～ 平成20年1月の間 全体会議 7回 部会 1回	NPO法人子どもステーション くまの事務局	NPO法人役員5人・食生活改善推進員団体代表1人・地域活動栄養士1人・紀南健康長寿協議会健康づくり部会代表1人・市町栄養士3人・学校栄養職員代表1人・熊野(県)農林関係職員1人
内容 会議で当地域の食育に関する課題や解決策について議論やお互いの食育活動についての情報交換を行いました。昨年まで設置されていたプロジェクト会議で作成した各種の食育ツールの活用状況と今後の活用を探ったが(19年度の目標のひとつ)、その活路は見いだせませんでした。 しかし、相互の特徴を生かしながらのイベント企画を通じて、関係者の連携を深めるとともに、先駆的モデル的な食育の取り組みを地域に示すことができました。		

(3) アンケート調査の実施

ヘルシーピープルみえ21保健所版である「きなん地方計画」の基本方針のひとつ、食育の目標「家庭で食卓を囲みおいしく楽しい食事を」の指標とされている「食事が楽しいと感じている子どもを増やす」について、「楽しい食事」とはどんな食事なのかを把握するためのアンケート調査を実施しました。

- ・ 期日:平成19年10月～12月(2回)
- ・ 方法:健康まつり等のイベントを利用し、記述式のアンケートを実施しました。
- ・ 回答者数:183人
- ・ 結果:「楽しい食事」とは、約50%の人が「家族」と「一緒に」食べる食事、約30%の人が「仲間」と「一緒に」食べる食事と答えました。紀南地域では「家族」と「一緒に」が食育を進めるキーワードです。

2 食事バランスガイド地域協働啓発事業

(1) リーダー研修会の開催

平成16年度に実施した県民栄養調査の熊野保健所実施分の結果から、県全体の結果に比べて、果物類は多いが、野菜(特に緑黄色野菜)・いも類、牛乳・乳製品の摂取量が少ないという傾向がみられたので、関係団体と協働し、どのような世代にも大ざっぱなイメージでバランスを啓発できる「食事バランスガイド」をツールとして、「野菜5つ(SV)食べること」について重点的に啓発を行いました。

①食生活改善推進員団体リーダーに対する研修会

実施年月日	実施場所	参加者
① 平成 19 年 5 月 13 日(日)	熊野市保健福祉 センター	熊野食生活改善推進連絡協議会リーダー等 74 人
実施年月日	実施場所	参加者
② 平成 19 年 11 月 8 日(木)	熊野保健福祉事 務所	熊野食生活改善推進連絡協議会役員 26 人
①講 演:「使ってみませんか? 食事バランスガイド。野菜は5つ!」 ②説 明: 調理実習等での食事バランスガイドの使い方 担当:熊野保健福祉事務所 管理栄養士		

②健康づくりを進める団体に対する研修会

実施年月日	実施場所	参加者
① 平成 19 年 7 月 30 日(月)	熊野市保健福祉 センター	紀南健康長寿推進協議会健康づくり部会 12 人
実施年月日	実施場所	参加者
② 平成 20 年 3 月 24 日(月)	熊野市保健福祉 センター	紀南健康長寿推進協議会健康づくり部会 9 人
① 説明②調理実習 担当:熊野保健福祉事務所 管理栄養士 食事バランスガイドの活用について説明及びバランスレシピによる調理実習により、バラン スガイドのサービング数と実際の料理の目安について研修を行いました。また、紀南地域で 不足している野菜料理を2SV(サービング)増やす取り組み目標を共有しました。		

(2) 地域栄養管理ネットワーク研究会との協働

各職域の管理栄養士・栄養士の交流及び連携を進めるとともに、委員会や研修会を通し
て食事バランスガイドの啓発や時事に対応した情報提供を行いました。

① 働く世代の食事調査(アンケート)の実施

実施年月日	対 象(回答者数)
平成 19 年 9 月~11 月	当該委員会委員の所属する職場職員 (274 人)
<p>今、話題となっているメタボリックシンドローム対策として、当該ネットワークを生かした取り組 み(協働)を模索するため、まず地域の食と栄養の実態と課題を把握すべく働く世代の食生活 アンケートを実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査対象が研究会委員の職場職員という偏りはあるものの、ある程度の傾向と、日頃の 栄養士の気づきを検証することができました。 ・ 現在健康に不安がある、または治療中の人は食や栄養に関するニーズが高く、中でも 「なにをどれだけ食べればよいのか、食べているのかが知りたい」というニーズが多かつ たことから、食事バランスガイドの普及啓発が有効ではないかと思われました。 ・ 食事記録を食事バランスガイドで集計すると、全体的には主食、副菜が少なく、 主菜の摂取が多い傾向がみられました。 ・ 次年度からの取組の参考資料となりました。 	

② 集団指導（尾鷲との合同開催）

実施回数	対象(管内分)	内容
3回	保育所給食栄養計画 担当者(栄養士) 管内4人 (保育所22施設分)	(1) 食事摂取基準2005年版での栄養計画作成方法 (2) 栄養アセスメント (3) 大量調理施設衛生管理マニュアルの活用

③ 給食施設従事者研修会（尾鷲との合同開催）

実施年月日	実施場所	対 象 (参加者数)
平成19年 6月12日(火)	県尾鷲庁舎 501会議室	熊野・尾鷲管内の高齢者施設 給食施設従事者(16人内熊野7人)
講演：「高齢者に多発する疾病の基礎知識と対応について」 講師：尾鷲・熊野保健所長 他 事例検討、情報交換等		
実施年月日	実施場所	対 象 (参加者数)
平成19年 10月9日(火)	県尾鷲庁舎 501会議津	熊野・尾鷲管内の給食施設従事者 (44人内熊野25人)
講演：「行動変容のためのコミュニケーションスキル」 講師：東海学園大学人間健康学科講師 松田泰昌 先生 講演：「私達の味づくり革命・めざせ味の標準化」 講師：医療法人永井病院栄養科長 小畑ルミ 先生		

3 人材育成・支援事業

① 地区組織活動支援

実施年月日	実施場所	対 象 (参加者数)
平成19年 11月8日(木)	熊野保健福祉事務所栄 養指導室	熊野食生活改善推進連絡協議会役員 (26人)
◇ リーダー（役員）対象の組織運営支援研修会 活動の活性化を図るには？など課題別グループワーク ◇ その他 適時情報提供		

② 市町行政栄養士支援

実施回数	実施場所	対 象
5回	熊野保健福祉事務所	市町保健分野管理栄養士 3人
◇ 情報交換、連絡調整、資質向上 等		

③ 地域活動栄養士支援

対象人数が少なく、組織化のニーズもないため、職域ネットワーク研究会を活用し、特定健診・指導等について随時情報提供を行いました。

4 虚偽誇大広告、栄養表示等相談・指導

相談件数 2件